

「日々の理科」(第 3116 号) 2023, -2, 16

「南岸低気圧による雪(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもは氷や雪が好きである。私が子どもの頃もそうだった。今回の雪も、半ばシャーベット状の「ぬれた雪」がったが、それでもわずかに積もった雪を集めて、小さな小さな「雪だるま」を作っていた。



この1年生の女の子は「雪でウサギつくったのー」と見せてくれた。まあ、ウサギにも、ネズミにも、ラッコにも見える「傑作」である。1年生の男の子は「先生、降って来る雪、たべられますか?!」と、巻き舌で興奮気味に聞いてきたので、「食べちゃダメー!」と言ったら、すごくがっかりしていた。



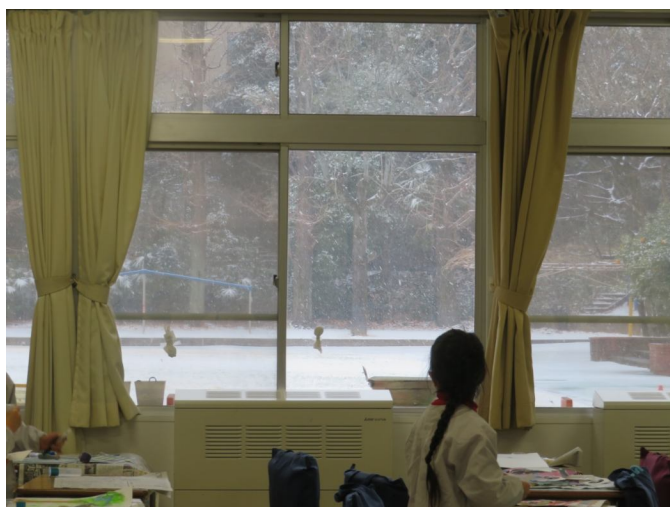
雪はたとえわずかな積雪でも、風景を劇的に一変させる。普段見慣れた校舎周囲の風景も、まるで雪国の小学校の校庭のように見える。この日は全学年、外遊びは禁止になったので、雪遊びの姿は見られなかった。



今回の南岸低気圧は、時速 65~70km と速度が大きく、午前中から急に雪が強くなったのが特徴だった。校庭も見見る真っ白になり、その後珍しく東京区部にも「大雪警報」が発令された。



素人目にも確かに「大雪」の降り方に見える。しかし低気圧の右側の縁がさしかかると、南風になり、気温も上昇、その後冷たい雨になった。



1年生は図工の授業があったが、子どもたちは外の様子が気になるようだ。結局給食後に早下校の措置をとり、子どもたちは少し早く家路についた。